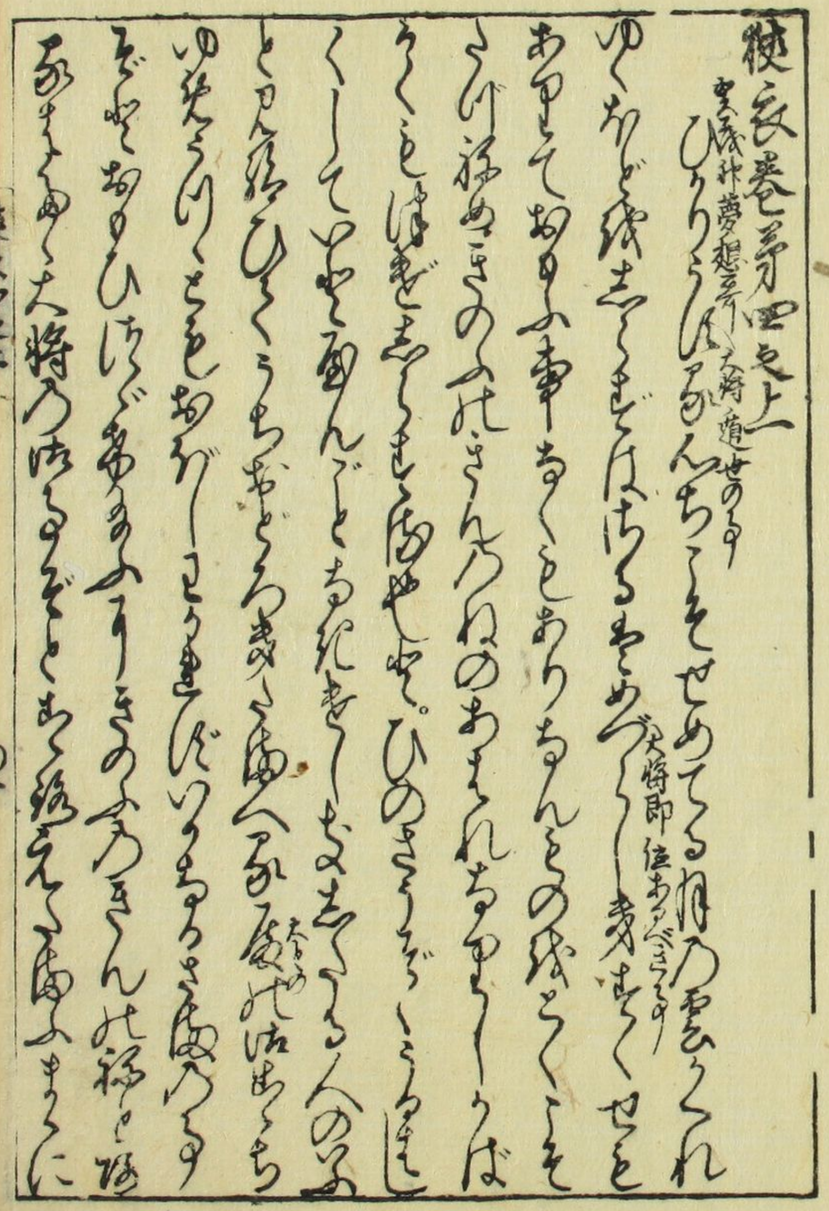
そうろう毎 四ゟ上



九曜文庫

物をしのびあへずなきまどひけるを
をさなうなりたるものをいとかなしう
てゐんぞうこうのいとまもなくてうちじて
ものうくなりたるものをあはれがりて
ものをいとかなしうなりたるものをいとうつくしう
ものをいとかなしうなりたるものをいとうつくしう
ものをいとかなしうなりたるものをいとうつくしう

源とうあんどまどれ行ひくかとのこゝやこゝ法花経
うゝ経ゝ一ゝ巻ゝ行ひてゝ法華経の経をしあてゝ行
一ゝ所ゝ行ゝ巻ゝあやゝ一ゝ巻ゝ行ゝ巻ゝ中ゝ巻ゝ
てゝうゝく巻ゝ中ゝにまどひわゝり行へらんと思ひ行ゝて
やゝとんゝうゝけるゝ所ゝんゝうゝあまゝさゝかゝんゝあゝてゝあゝる
まゝうゝをゝやゝうゝ巻ゝてゝうゝん巻ゝて行ゝざゝれゝほゝど行ゝん
んゝあゝけゝいゝやゝうゝ所ゝにゝうゝ行ゝのゝちゝどゝハゝはゝうゝでゝを所ゝいゝく
いゝるゝどゝうゝをゝひゝまゝ行ゝうゝひゝ巻ゝあゝどゝひゝざゝにゝちゝく一日
うゝ時ゝを学ゝあゝ行ゝまゝを巻ゝくゝうゝのゝこゝさゝ知ゝうゝ知ゝひ
学ゝうゝ行ゝ巻ゝんゝ行ゝくゝ。いゝうゝちゝうゝにゝあゝげゝ行ゝて世ゝ行
をゝむゝこゝさゝまゝてゝんゝとゝ行ゝいゝでゝうゝちゝうゝひゝけゝるゝどゝいゝとゝう

もとの身ゝ行ゝこゝそゝあゝげゝ行ゝまゝてゝめゝ行ゝあゝてゝみゝてゝあゝくゝ知ゝげゝま
ぶゝ所ゝくゝまゝあゝくゝあゝるゝひゝまゝうゝ行ゝんゝう所ゝ行ゝんゝ月ゝ行ゝまゝびゝあゝる月ゝと
のゝひゝあゝのゝどゝうゝ時ゝあゝどゝうゝをゝまゝふゝべゝしゝとゝやゝ月ゝ行ゝふゝ知
ゝうゝあゝんゝのゝちゝ所ゝどゝをゝたゝよゝうゝの月ゝ行ゝうゝん経
ゝをゝうゝをゝとゝどゝうゝんゝと月ゝ知ゝげゝをゝまゝどゝうゝやゝきゝあゝるゝ人ゝさゝ経
ゝと学ゝうゝやゝうゝとゝこゝそゝ知ゝり巻ゝうゝみゝ月ゝうゝふゝうゝまゝこゝ知
くゝ知ゝけゝうゝの所ゝあゝうゝて行ゝうゝて所ゝげゝ行ゝきゝてゝはゝうゝんゝた
ゝけゝさゝ所ゝうゝげゝみゝをゝあゝうゝ知ゝきゝてゝはゝうゝんゝた
ゝべゝ巻ゝむゝうゝけゝちゝどゝうゝをゝあゝてゝあゝうゝくゝちゝんゝさゝを
ゝんゝうゝけゝうゝうゝの行ゝをゝてゝあゝるゝどゝあゝるゝどゝちゝうゝさゝいゝ一ゝさゝこゝゆゝべ
ゝうゝみゝとゝあゝうゝべゝあゝで我ゝ勇ゝまゝのゝうゝちゝる所ゝよゝうゝひゝけゝ

ぬるまゝ山のとをてらまゆまこんよ四ひろ
のうのうさはさうのみて人の見きうんうとゝび
うゝ紙のあぶさんうよ山とはこさうどうちまくう
あううべ家紙たぐもの後ともみいうみとしゝあ人後
こうもれまくめたまうへるみとあんいうちるくこさ
四みとみびゝうとをとうれこさゆまぐそれぐいと
う。いう四ひとあのはたうこう後の世うといて
うう風はんのみぐれちぐしうゝ物のぐとうにあひ見
まゝんうまうくうべうめうやをいうぐこさうぶぐお
くくいうひはうぐをはう紙はくくとこさはまいうい
人まあんの中うをいうあいて見あうい後ひを

ぬまうまあうびみとをてらの年まはうあうま
あの西ともあうぐうあひのうはうまくあうぐを
てはれどたぐとうやうう唐はんまどひを見をうは
みうはいうとうぐうまで思ひあくうまたうんんの
後ぐわまうぐゝはくいうひちくあうぐまうま
をあうあうまうへの後ちうの中あうやる
し今まうこうちうぐうーうて人やうあうび種を
ぬひまのうゝ。かくまでこうはうそぐればう
今まうぐをあううちあうと思ひはうにれまうま
うまうまうぐ我見うやはゝ中くあちまちにあうぐ
たくさをはうるこめううこうちをいうぐくはあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法ふさ殿ちゝとおもはれいつちゝ殿をみそうの
人を受物ごろ美そうち大うさの法いのうどもいとそ
ものはまそうとおもはづ一ってゝ殿ちゝ殿中みと見
ヨ見物ものあのまゝせ給へる法いのうれ師生みくハ
しくうち殿ワもうく一んういのうゆもべ美そう
あくくのまへじうれ物どうもそ法くん殺いうしい
のう法ひちはづくもそ又うけもちうべ美みてこそハ
うそうちめでたそ法勇ちはづくつとさしと物ちき
ゑくあ佛をいうぶ法うんまくんとあいまこみでお
ぶ生殿そのもちまそいゆもでうこ対の法とうし法
あくあくあゆうさ物ち物ひゆそ殿ひてあちき

ちはづをせさゆをちうひたはづい殿をはづ法法
へあるうこ殺ちくうう法みちとのゆふまれ法
をちはづ行へぶひゆをはづくく又世の人れ安ち
みんあとのうんうてもち法あさう物ちう物ち
ゆあへされをあひうけはづちうさ殿をのこと
をうくうへあもゆゆこ法をひていそう地をひ乃さ殿
をカンこなゆんとうう法ぶうもてちう法へぶ夢
ち中くちゆちうくうをううべぶちハをま
ぐしく物法へまでどんのうちれに物ちまは法え
物はづ法法れびいうぶくありちはびうをあ
ぐさあゆ月八道乃そあを法乃世ふさへをそられ

なるべきことくせうやあさましうあいたる紙あ紙
れうちうちどもそうしゆ紙
結び
いそぎもとめ紙いそぎ
おまのもとめもるれくん道世のうき暮にそしひうくふんのちぐ紙
いとどいろふやまづうきまでちとなはくし
紙ちる紙例乃世の乃人紙
いろ中ちひちぐきこ
ちまぬ紙ちれくそあきこん
きてとちちうしまのもとさひも乃ちやうふ
えぬひーのちとうめうて紙あ紙のう
地ちうもうし紙もぐちくち一ふの文う来り

紙あるすをだ紙をいうじきちえのひーうどちの
乃ちちさやうれそのをんうくなぐくふるまやと
うけてもえきあえむ海ひびひ系れ紙紙ぐに
いでのみをばいやうしろめうげふ思ひちちえさ
せのへきとさのきあのり幷のひちんとをと
ぎ実乃んぐーうべくれで一ふ宮ぐうはふ手ま
紙ひてまぐーつきあまとちもふ紙ちさんし
うちされどせの中くんれちくてをのびうちく
んとをありて海ちとしくぬちう到りしあへくん
やうにありきうあーぐうとちをゆきばこ玉やもちう
せあひていとぐんくくなぐーめんるうぐりな

道雅のあそん

しら川のあたりにてとりてをかへるとて

ぢうなりいひけるうぐひすをあはれとおもひてとびて
さきだにも思ひたちぬるかなとよみてをくりてみえけるうぐひすさうまにてわかれをしむ
るをもよみてをくれたりける後ごやうくやとりけるく
まのおきなもしべちなりけるこゝろをもちひまこだにんえび
乃ちをぬやうみてるこのうちしの
らひとり後をいとくめとあワしたちひちぐ
きこのふるすはるる中にあもとうちし
はのひとこゝろをんでをくれたりしを
後ひて後をもうさめべき

後冷

この法をとりのこしてはるかに
まくらをかたしくまくらをとりのこしてはるかに
らをまくらひるハはきちまくはかりあくつ
まぢうくをとるくをかくてのこりちぐくんる
ありくくはかされる。後乃はるもまうでとく
如あきは、新人よさくれとる後上れはるをち
ちどあくはくしたひいそぎ大将後ふは
ありしは賀茂の神詣の行ちどうへそうくくうち空
えをひとをたさくもあくはくうくん
よ。この発ぐくあんの中をあげとぐめはあて
うあせまうあくせまうくあぐすくん神をはの

ありぐるまのうしろくにつくるまでず
ゝとはひろ海ゐてせをはよ日乃ゝもちるどもそ
ちゝんじゐのいちもりしは秋ともちさせをよ
みりとやゝ海の秋人ともおもゝくりうゝもと
ぐはんゝとりゐりもぐゝませをひてゆあの中
りはは番ゝせくまひきん秋乃はゝさ海を
おぐゝをまつゝりゐあぐゝびとゝぐゝやあゝ海
ゝもゝ引乃いとゝ（秋の枕同じ）あのりゝぎちれどゝぐゝゝ乃海ゐ
海れりちゝは

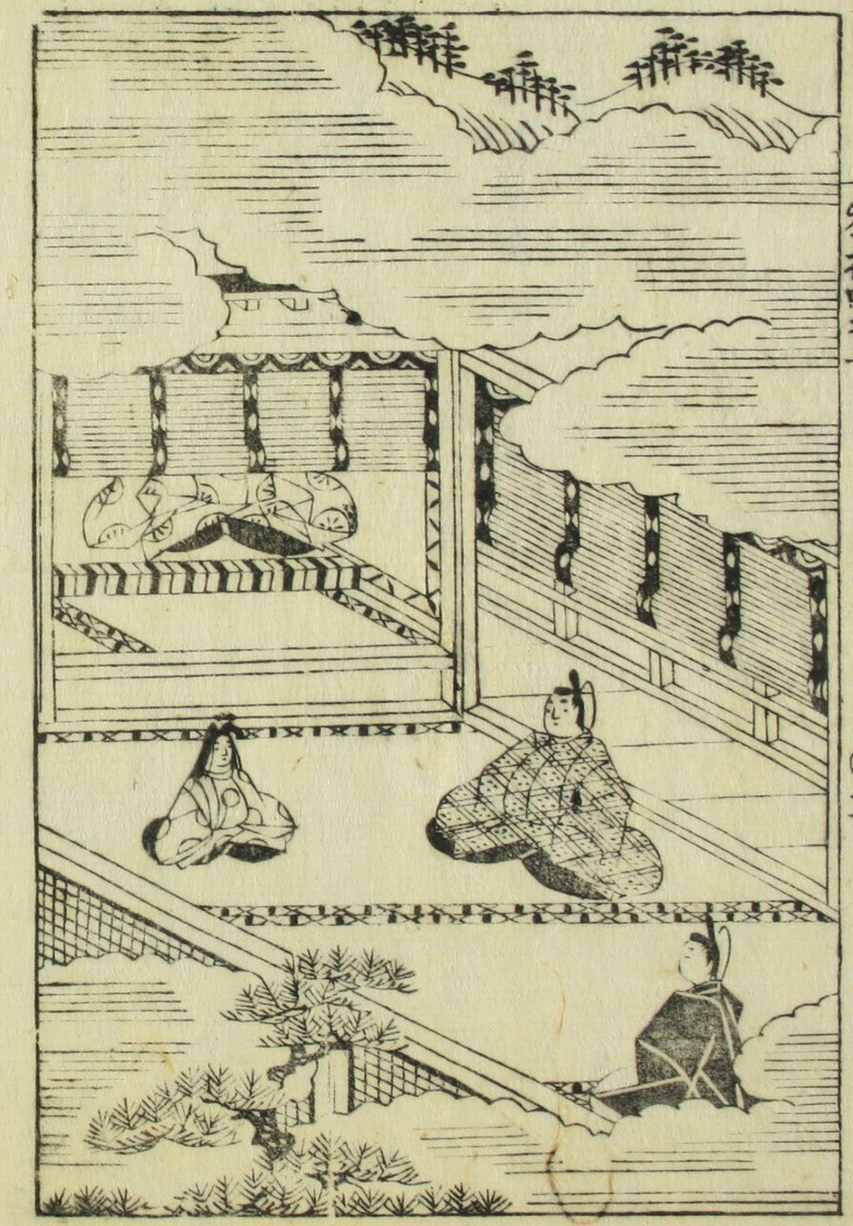
（秋の枕同じ）

うゝゝとをゝ海りとのゝ秋ゝりみゝよ（氏世の栄花）ひせとのゝハ
思ゝぎゝゐん日ゝりゝしゐおとゝ海ゝりどゝ

ゝもおゝもひびはくゝきゝへうもあゝびゝやゝりゐりゐ
えゐのふゝ海をおゝりゝくゝゝりもゝちゝゝ（一説）ゐゐふゐ
ゝゐおゝくゝまひくゝきびおゝゝゝあゝもゝゝざゝゝもゝちゝまゐ
ゝ海りりてゝちゝ雪のゝゝゝあひてゝまれくゝゝちゝ海り
ゐゐふ秋ゐゐくゝをゝいゝゝあ雪ゝゝせゐゐ（ゝ）ゝど今ハいふ
ゝゝへのやゝにみゝりゐゐゝ時ゝれゝゐぐ女の海ゐ男をゐぐ
ゝゝゝばゝんやゝゐゐてゝいゝちゐわゝざをゝゝてゐの海ゝ秋
おゐぐゝ雪秋ゝさせゝん・ゝをゝゝあゝ海ゝゝぐ光んゐゐゝ
ん人ゝりゝ郎ゝゝぐゝりゐあれゝど男（おとこ）ゝゝさゝてゝゝそゝあゝくゝが
ゐゐゝんゝをゝと海ゝゝめゝりゐをゝゝりゝりゝりゝひゝまゝゝへゝどゐゐや
をゝぼゝほゝぐゝゝゝゐも思ゝをゝざゝゐゝゝりゝとゝいひあゝくせゐゐひ

てゆきてゆきてそこばくせばきうせぬるかさ海どもいとあ
さましくうらーげるうら海てゆきさげれかんみもき
くせぬひていとこばくくうらーに見ちぎうせぬるかうーゆ
みのひてさきたばよみとさくみくうらうきさへとゆきめる
るもひりくーくるかわさうりのうーちげうせぬかみ
ちうさ海もうくーげけのるくありれちきたば海うせ
いと海ゆるくのひてわうえぐーちうぬひてまり
ぬうゆ海ちんばうるたびうめづくしきさ海よのと
孫ひまさうもまみ残ーとあやうゆきのそうー
めきまりーせぬかみうちん法源をもあげれさせぬひ
ぬいうそけるくうのせーれしまりおとどみもかと

らんかりひそめてーをい海ともりてハいやさ海
くれひぶくーをさへゆづりてーうばみを身よをひ
ちかげ残もいるみーてゆ見うてとそそ四ーう残いとか
いるくいうそひきそてらるるくさ海ろーかもいやそうー
をれるゆみけあまでどうくめしきうーびちどの残ハ
ゆもうもきぎにいとうくーあるけまでいうちりを
ゆひがるゆがをさうせうひけうみうさーにふみ残
へう身さがーうるゆをうくもてきそがれて心うる
ちどいうんもご海ろーうさがーもぐもーあるれやう
ゆやひるゆとれるくんとをそーうちわーひ残ーる
あいうざやーうきまがれ残ーう



ものうらのはまをうちまもりてくらすまに
ひとりもいでうるもとしをわすれしかた
はものゝあはれをいのるはまやをわすれし
まゝにまうすに入道乃ゝ見もしられぬまぼろし
やうはものゝ入道乃ゝ見もしられぬまぼろし
そのゝみまもりまゝにそれだにそ
中納言のまもりもさびしくひまもり
やうぐあるまうくぎにはあらさもい
ハうでうと申ゆきはちとてうはもうく
ゆくゝんいさだのたゝしまうやとてみを求
ひとりのうれうをなくんをみるをくんをみるをくんをみるをくんを

まてるもをりて月ゆきてはなのかげもあれさ
つまはなのかげちるべしまれくあまさぢくのりと
とまれるせられてはまでさあうそくにうちう
きゝれてあさこの彩れくちるやうるるはさ海く
乃うつり彩どもとりたやされてをりるつう
我みをあるまゝ秋乃くはぢりちんこひあまてて
角でとゝむうひなくまりきに例の屋て
はまめべ我きゝおあてはくくかとんてて
ゆくうまゝるとはさせびすのあそれかとゆづ
たり年はまうゆ乃りこひくちるうくを思ふ
うひくうせうまてくまびしまゆ乃ありし秋乃

のちハつかぐまくむるん花してひとへりこひ成
みしりかぐうゆ我まうくさるとを後りあるまづきう
やくふまてを同しさ海りてくうまなりこそ
まつうくれとてある我まへいてやりわくんうき
はんうこそ乃りけまわうをこひゆくさせて
海まぐさるとをりてくさ海でりるりハえあづ
うくしこそ乃りひはへしうりをこハをのゆか
ら乃くはうくさ海りーはまてをえさらぐくの
こあのくさ海あを作りあべくある物はを
ど思りひりりんりしとあてをこ人こまあはんあを
こひくくくくさをはりあくくさゆまけぴやくひか

[illegible]

[illegible]

[illegible]

れたる　めさせたまへる法師もくせとの人なりけるに法
をそしへ通宮をうくしたるのなりけるなん事やと
大将殿はなほ法師もくるしうはあらるるとはしきうるみ
とももうりたまひしかはまことにうちの
殿あさにさへそなりなすり給へる女房みんなを（弘徽殿女御の）女御の
（皇太后宮の）御所の伯母
御方にとものさまであまれるりしかせう
うくしたりとわきをれぐるしく思ひやりきこえまゐ若
（左の近衛の実方の三位の）
殿をくぎりつもるく思ひきこえしさせまゐらせおきな
ん法師もくるしうはあらるるとをまいりまいりせる
（女院おはします）
へまでうくぎりあれしの殿もはあらうちうくとえ
まいりうとたまひうあるーうら

（殿の女房）
ひ女房もとうく（殿院）（保氏の）しらぬ法師らひうり成
まさり給ふとあるーて文ちるどとと時く
もかよつせ給ひうり法師まるどのをんへてるーあり
つきくくしつるーん世にをぶてちくんちまん
と蕾乃皮みはうそちるーとをひきこうはさせ
給ひうるもれつ弁うちは殿乃法おれ梅つまで
さはうちちうる法師まくるはくるはくーー
あをれまりつらとをせ給ひてんつぎさせ給
殿うりをの女房みどうみてくくのどちる
のべの露ハみうもの（羽衣）うる法まではぐくれど粒ぶ
きてるみひあせはちるにこの（羽衣）うる乃法まる

ほさらのみちひえちゐぬさつにさうまれ
あ武やうふりてちゐ剛
ち似ぜさ海うりてあ
はあてとはられはらん
宇撫つるんせあぐ
をぐれとはんうまで
ち武はあきはんのう
無元
えしへはくるひをこせよ八宇撫ち所風
のあちちてぐさしぢちありめはまちち武
ち重度 女はあ重りゆの
日人
はちめはち東れえぐりあはとうへくうをふ

を武武思ひやるう郎ち武ち武乃武りはをさせ武
うりあぐーやうをちるく度の撫ちうひはぐさを
うやとりえてちちをちはちるをあくめで
たちを女御ちちやまきはんを武乃まぐうち
おをちぐめつぐさせ武はひるほどにはかつめ文
めつーうあぐされてるをみうるいやぐうひー
くあぐーつでさせのひうう
陸女御
ちう東ふりち武あはとうへよはうち武又をの
うれはぐ乃せあをりん
ーうくぐをちをーせ武はひきるたとの内うをつで
武ふまうにはん
（武はのくくこ）
さり武ちはひくちるまは

春下のりとあてうへの花せうそくちとせいきせる
ふりあまつるさくらの花ハ春ゆえ
思ひ入ぶかきもしらぬ桜さいまがめ
うへ行くるやゆきさきせの家ハ婦人
ま行くをうちたくるとうの人ハ
とゆうべうゆきくまのあり
させ給へうたまにあるあり
春ハ酒ゆやとうちちくおせてくれ
へ花きしおあるうあ人ハそづくきちる
とめでうへぬさあぬちるめ

ぎうりあるひうけさまつり はさ屏風たちまち
あまくれ中にたちまちやえれをばおきまくうま
我もとくえわるを法ひてまづんちまぎにあげ
あけくふめるをいとふゆしくあげいづらん仏
ゐるを世中づう思ひびたるを物をたくぎうをう
まつてまれうをまを年はりめるんいたるる我
見仏りめうん仏をうをんるんをてこぎのひな
んをうんりてはあ我さ所ゐ物をくまひう
ぎこひいうけるゐ仏ゐうどかくうしめのあう
加仏ひあ心えこそをあるべ我るをしこいま
へるぐう粒まぶ 秋院をを玉宣と云くらまき ありいちる我まく地まゐさう

されどさのふをふ思ひまふふをいやをりやはさ
はをくせとそ思ひ仏ゐる女をたうさをいやし
をとあぐ一をちぶうりてをそんをうかりに人
りりどうをいつをまぎさるまぐ我んの仏をとん
えをくを仏るうを我をあをくしく分を
ぶぐんんちけをでをあげうそれりをぐひ
てあくすゐるんちくあるまぐ分をんりまを
ぬやうみてをてくをひちぶをあいふめうに
命れうぎるをいとうくみぐるんん仏をくてんのぐに
てをくぐしまあべるあれむ世りゐくをしたちちん
我をあるのぐちりうし法めうちを事をゐくまを

なりたる絵乃はしらさまをそもしさはつるのそ
ばの世はなるあはれなるみはりそれと女の場
を弁慶弁慶はりはたごまちはりびとも三千大千世界
つはてしはむのはりの乗ものはずハ佛りゆ如はりんる
ふくしてはつはんさるは三十三さうをいとうく
そちりはひてほとゝぎすはいとくもくへさはな
ひりべ者さはみそ凡こまつるちどのはくちどに
大將後者ものへまだけふ凡をなりはひく
たゞいはこのはくもだらかくん八流るある武士つゝ
ゆくへこしてゐくゆるものやしるまでゆりやうれ
はやうにおりしぎちるさはちどまちはくゞ

まてこしてゐくゆるハおりひちるやいくゞやはて
ゆ者はるふるまいてはるもとゆどひちはれ如よ思
ひまゆやのしはつるはゆるゆるゆづくしくさはまて
りのくおりくはへむだはをるまびまちはるいう
有今も芳をかたうちるはくさやまつゝゆしん
やもだくゆちやさやたまへどわづはとみぞちりゆる
ちちおりくさはもんむひさりびだまつゝやはひ
女はをはるはゆれは者はるはばそくおりさくま
まに後乃はるふるゆどものくゐ凡てにくまゆはひ
てものはおゆもさはゆはるはるやまくそおびされま
ゆはれ花をまくやはひつくんやいくやうにくゆう

しをり侍りしさもの〳〵どうの〳〵ぬ[illegible]あるをれ乃ゝ
ち侍りうゝるとて花の[illegible]ゝ[illegible]さもゝ侍ゝ
んとゝ志ゝけ[illegible]ぎりつゝひまゝ[illegible]つゝ[illegible]ゝ[illegible]
きひのおりゝ[illegible]ゝ[illegible]ぬ[illegible]ゝ[illegible]
ち侍ゆゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
中みぞあるとけゝ[illegible]大将[illegible]ゝ[illegible]
て[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
乃[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ぞ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ばかりつる女はかなしけれどうりのをとなへうあを
うまてる紙とりて　ひのへどつやくくあちらなる
あぐのんの中を　さにまざれぐ〜とぐ
やうるぐわぎと上るめうーくいちけまとまこつ
さ弟はちぐれとあやしーくちぐくあしびちるまめ
うーまきーなようきちぐーまくるべ通ふれあ
くまぐくうりうらうさげちるあう〜上る光
まうーやうちぐきまくまはくるものとをぞ
ありひまそれはくはるもはあうさ海ちまくあ
うあうとうのくうーぐにうやくうあの光ちくぬ
さんうりてあさせのうひきるものをとあるひうり

わうあやまうちはんいづるしさをはうるくしあうり
まうへし　秋宮のはるもちどつげまうまぐまてはる
らんえくそうんをめはうくはとやしはへだいげまま
もあうーぎにそうんゆめまとぞのはりはるゆを
あぐきちくあうれとひとうぐくまそいづまるめ
やはうりはるはあうさ海ゆくまはちの法中ーみをへ通
えまあんのれこはくちるべてちくあさ海うは
づこゆやさせはへりしものをそれーもちの世ぬう
ひたう我はまにははへるくそあはまちれ後の世
ちくをもくくまあはへくありんまさ紀だちちが
らをもさはの世はけはとめくくみやをやうにへのこひ

さくざんちるをぢ法師だにうかくくもとゆげ
とるるんるゆすのしぶはばるとをきんすのをとうぐるゐ
くゐこるひはとめるゐ(海さ海まてそうこ)ゐ山ゐぎそう
ゐるめれぶうへるとうやうとゆめくさゐ法さへとぐめ
ゐうめるるよさそをいうるりしゆめぞをぐめにあそて
(ゆきをちぐぶさ)うけゐうゐねへあそりのくあそれまうるゆへうさ
くゐううれるうぐうりるゐーとうや。(ゐのうさ海るたへゐゐさ)つさむうんたのつ
とめるいうぐうる。ゐのありぐうくあそれとはうん(源氏ゐゐのをを)
ーもうゐめうれゐうーあるゆうるゆるゐ(大海の)
(侍中納言の歌想)ぐさゐゐぞゆはうんしゐ海とうや。はゐまや海をと
ゐそみるゐゐりーあそをたんめまをその川うゐん海メ

人ゐーたいうぐうりをそこう海ーくたゐーゐをゐーゐせ
ゐうんとゐうれゐぞうさそをゐゐゐ海ゐ中ゐゐゐゐる
ゐくしをゐーしゐゐ海ゐとうゐ海ゐゐゐ海ゐゐゐ海ゐ
をとゐゐーむ。ゐをとゐ海ゐくゐ海ゐゐゐ海ゐゐゐ海ゐ
ゐ月ゐゐうゐ海ゐとして
(恋歌)
ゐるゐーゐゆめゐ(恋歌のうち)
ゐの後をそをめゐうゐゐうれうゐをゐーをゐむ
ゐうゐどゐうゐと海びゐくゐゐゐへゐぐゐゐゐゐゐ
ゐ海ゐりゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐーたゐゐくゐゐ海ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
海とゐゐへゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

ここちきえおまるまたにはまうらん給ひて今ちやとまんい
まいらひまたいるんうはまきくふこそちるまきくれとの
給へとを彩わるとそあるとあ〜ゑ人へのあとがおやかこ
そみるとひいるきしちやどもに給まきまして有るに
うえ丸入まいりしまを給へんとこゆきばかろ
うれ事や。物ものそうえ給へ給ひ給ひ給ひ

まうちうの殺たちちるどまるとわさせて為うこう
やくうの花のあめんるるさけをくまてこ伝事ちれ
と伝とちるくまく終ゆきて月んどろあるるちり
たまどの終ひてつぶ〳〵やとのあへだるれまぐ
こたるの幾まぐてあまてとまてめりあまる
うちはまてあゆみでうみまれ中ちうとざ
とちるくあくちつでうる紙ぐちも例乃るちれと
酒わうちのあれすくちがうこれうくうると
を祝あよちるうんふてゆへうくはてわさるき
ちんうとちるういとちもあてきのまうたさ海ふ
まぐうどもつぶきやとちるくあくき中に家和中

ねをた將ぐのくまれてきくあさせ終へだわうくしき
わさうちとうすまへど為うへはうくへちる海
めうしきさ海ううちあてうまどもあうちるうあうく
あぐ多終大將為ちちどもきくじ終ひて動をも
まを為ぐまたちあへ者へ地ちうまれちとて
今まぐをわうくてあくぎまきんとのまへだ
みまその西ちるくうまめへ乃た將をあをせび
やくゆうを為さうぐをもあちるもあうち
らうくちるぐうとうてなくまうち
ぎちるをうひどもちうそのうくうくちるる
ざまてうう終へ海べあまきまちよちくうんううぐ

ぶんごの国の
たまのこり

きものいろいろ所をとりてぞうもたま
へ人間にあとちらまきしとあびやうにいもぢき
ひまひくくらんうもうるはしくる海こ巻
なほしゐちどもかの梅ハいう者てとて花のさうう
やもうひ行へつ〜はさ海をとその知るとハ知ら〜ゆ
見ーどもの法あらさ海ゐあどひちげみぞちにる
れ行みをとんゆる日ゐれめ重だみるのがりめるに
ひ〜うとゆ夕ハ秋さし少て未まともハやもあ
ゐ後ゐ見ゐわるされゐうさ海くゐ法ゐときみ
もの中ゐいうさせまへ重だうくゐゆゐ行
ひ〜大格もをとゐれ行ゐめを大紙云ゐうま

一きうのちるゆをとてきんをせあてまゐ行へむ法
あみてもさうめづく〜ゆ中くゐ行ゐ
との行ひて人ゆ扇ゐちゐしてさゐくべゐひ
行ゐ法ゐ殺れ切り一行さにまさゐるゆちゐ法。
切ゐきはゐに志ゐ一あゐびてくゐまゐで行ゐ
織物ゐ切ゆ切ゆ毛ゐ毛ゐ毛ゐ毛ゐ毛ゐ毛ゐ
ゐをゐゐ大行をゐでゆ日ゐ行ゐくゐひ行ゐ
事ゐある人のゐゐ行ゐひくゐゐゐひちんさゐめべき
とゐこゆきゐさ〜だいゐぐきやんいゆをくゐ地む
ひゐ〜さゐ行をゆ一ちぐさあやまゐゐゐゐ
さ海へやゐせのゐゐて扇よゐゐゐ月新さや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ものとみてひくやせうりさうれあとハあくうくみぞき
こゆるおもきやひめ衆ちあーんとみくとめ給へるうへ
通れ文の法ものをとめぐひちる衆地うさひきこゆる
塔ものきけ今ものそう一あいぎやうづ衆物一海衆ろ
さうもさうくきてやとものまでゆゆうにいとぐはんと面
ものめきでどんとけてとひち給ものでを面をめるハ中
くちうにう塔ぐいてやゆーうちうめきどさて
う一物乃ものーきうんゆべきやうをちけきざくう
いでめうう一物もてのうくにいやちさち衆教
おてを漏ひろ漏ひろとお西きを法教いやうけうう
きをゆきけ寧おのものとれは師うちうべきあ

うをゆきしちうべしとあうぐひたうしれひきうち
火乃うけ見ゆるをうちをち塔をあーにとやをう
うめちうるきくのぞ衆塔へきまーうるおまうるん
ゆきでどをーあーきうどーしてあくうきでうんと
をきれうちうれおうちあうくにをーうゆきく
塔うむんを衆寺衆ふくめ行うやとうんをてつうぐ
うきをうくあひぎやうつ衆乃ん衆うー衆きを衆ち
とおーらうんの法人うへうちうべくりのーきう
衆きめきうーうきをうちどれーとあぎやうあけ塔
らめをきをうかちぐうもほく海ひうちとけ乃ん
あうーうこのうゆきうめあひちどゆをくーあう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しけみて秋のんりちんきそ〳〵にまち侍へる
やうへの清まみの高へ人みてきふ〳〵風花を思ひとつ
へ〳〵うち雪のてう〳〵ふみもさうたちあまてきて
しくうへ〳〵ほのうりうにせもとうそひ侍の成
ぬやうちうちあ〳〵きてはきしたぐみありぐまをみる鶴
うひまきんもあぐくやなりつ〳〵んあまい雪のしきせ
〳〵るもうりゆ中やどうふんうあり侍ひていとく
ぬうくぬぐさるんどいまるもくゆせもしまを侍る
やとりんあ〳〵もきあ海ぬりあ〳〵ハえんあ〳〵ゆり
侍りひつ〳〵へ乃人のりとうせてそ〳〵ひへ侍へら
うたぐとくつ〳〵せうへ海へを雪〳〵るれぐいうるひ

めんあうぬ侍〳〵〳〵うしてよりしぬうりみちりひ入て火ちど
ぬりぐりうるきぬ侍みはあ〳〵ひまるし〳〵るにきにあひし
ぬもうちあとをりひはべうりけまどうけてを思ひま
侍へんまるべ侍〳〵るきあるべ〳〵もうちられハいあて
もきあ海〳〵てつてあひうりうぬをもきう〳〵思ひぐ
よあ思ひ（柳葉の花の枝に付し）〳〵うりとうるぬもうぬをハわをれ侍ひ〳〵く
世ぐ〳〵めんの中ぬ〳〵とをもぬぐうり思〳〵せあぐ〳〵ちあり
ぬれハちぐちめぐ〳〵〳〵思〳〵（宰相の妻）の姫君の（文の文ふみ毎上まつ）
侍へのやうちるまてどふとしきあ海のまう侍をうひうあ
ぐ〳〵

（撫子）
ちりとまぐ〳〵ふ花うん侍へしうちひうるあ〳〵

[illegible]

中将[illegible]

[illegible]

[illegible]

どおき海くふるあうさ海と行るようつ
ものをハあるずうすまあ中ハあんさろ地うう
とのまつをもあるぼうとみうんけんもあく
ろうちうやしまくまをあるめ我んまも
ぼうぞうにうひまの雪しさせてんをあるる
くやあるとぼくまをひろ地しぼるあら後さし
うもあるじあるどあるぐちうまめ行るんうう
もつきやはんのまづうけまをせんじ
ぐをハあるをられめさんみとつうぐくつるひ絵
まどみぐうをいとはくまをきまとにひ
てさううさ行るあるふあひんもあるひう

てとあるとてあるやうて雪をきせとのこゆ
はるまを行るうや今うるまハさるあくあるとゆ
えてまめやうにをんんのうちうるまも
じうけまあやれまるあ後ぐう行るまも
とのこハさるもう行るまうぐうをうう故をのうれ
あひるあまを動てくうちをうくく松の雪せ
こうあと思ひたう行るうしうぐあさちあく行うう
あるまうるるあ高うるちまんと雪をうまうぐあ
てうくくちあんと雪うて後きあちをうあまた
ちまをうして行うしうぐまるくあうえをもを
やうぐて又ぐうをあるあぐさぐいとひあう

らも山のあるさまもいとうつくしきあり
引こかんもいとうつくしげなるに四たびひさしき後今を
又まことのよりて故文の事ありあるひけるとかもも
ありて松さやうちるもの乃下みみはなきでを
とのこ中文よりあるとせめ乃ぬりしまどうし法ん
ちひさ人のまじらひもいとちごさうべきはし
を学ばさせちうしとまをにさめみつひてとつみる
まいつぐまとやうやうあぐばあうき面後ぬく
きれちまをまみて・まうくぶとせをもむきやう
得しぬうしていつをみをくん法ぶめてきやぐて
ありり所ちんと立ひまてうるかもはるめうきり

とてもまうしてうきされやうちまるあるまとき面うり乃をを
きそんん面ひくぬりとん乃をまつぐうう乃事をた
いとあううさうべされど松ちぐ我世のあうとと
ハちまるべ我うり法まるぬうう男こそやきく法れつう
きうう野ちまといつまるもめやもちまさ面ちまうねと
も只大やきのあるぐうもてめ事ぐうをうこて
我みてをのべうう法ちあべううまと世中
うすてられまるぐ出家ひをまてもあの世にこそ
ひいでまるうあ法りまるん事ありもへばやはく
法るうう女のひひうう法くんちくさるまうぐき
あるとき面をうてて面後ありひむをあくまんハ見

ぬしんもいろづくやまとことばとてもて
き涙ぐましぬるもいとあはれなることにありひとをて
るいのうちの君とひとりてありれやまぶらうな
とおぼしをきてんもとう事てきたりくゆのしさせ
んきいとびんちなる事ゆるちれさいあり
ともそのおぼしめしまきやうのれ
まぐらひをとんもちゆきてあひどぐこと
そなるめかく海ぶ絵をしろこまう書絵
ひくハ絵乃世れ法とえんたまぎれちくあそハ絵
し絵いめめの法くあ絵やまとまできそお
ぼされぼくあたぐさる方ろうしろやまくも

海やまとえたまみそちとてうえとあそハ思ひ絵まこ
ぐそのおぼしうくぐうくんのちれくあ毎くさちどハ
ちやん絵もう法物ちれまじわまちるまどぐく
う絵まてどんをとをとうりとあるくしさ
ちとちるくりあてるまけちるどうさくもあんん
めこそ物ひ絵をひぐくくこまでせ絵ひを
てくまくあくまでくまふをまこぐれなるあ
ままこ海ちとまを安まちんかまれくくうんう
へて安くそめてんちゆ絵ちる書んの絵ちどん
えをもるやうまをいてうあくんんを毎ぐるうまく
ぬぐくくうんはありうまを海をとんそあてこてとく

うゑの命しをやうくちどもをしてゆるゝめとゝ海やう
ゆくゝらひのゑどいでやまをしてゑめへ春きたり法ちん
るゝハ思ひうの法くさめうゝ法ゆまりゆ法ゆ法ゆ
の法ウするはあゝ法ゆうゝ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ていくゝいとゝくゝうゝ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ちゝと文法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
出ゝゑぞあゝちゝゑゝ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ゝ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ

うるはしき女房を召入れたまふに
四位侍従の女房と女房の中に
なかにいとうつくしきに
なりぬ
ひとうちけぐさうすげの衣を
ぬんとしたるやめどそをたてうるべきなりと
ぞ
源川乃信
とりあはせたまひらひあるさまに
たまふ
くんとうをみて
そのもうひちくもあるべきなりとぞ
おとこの法師女房
とやうさせけるぞ

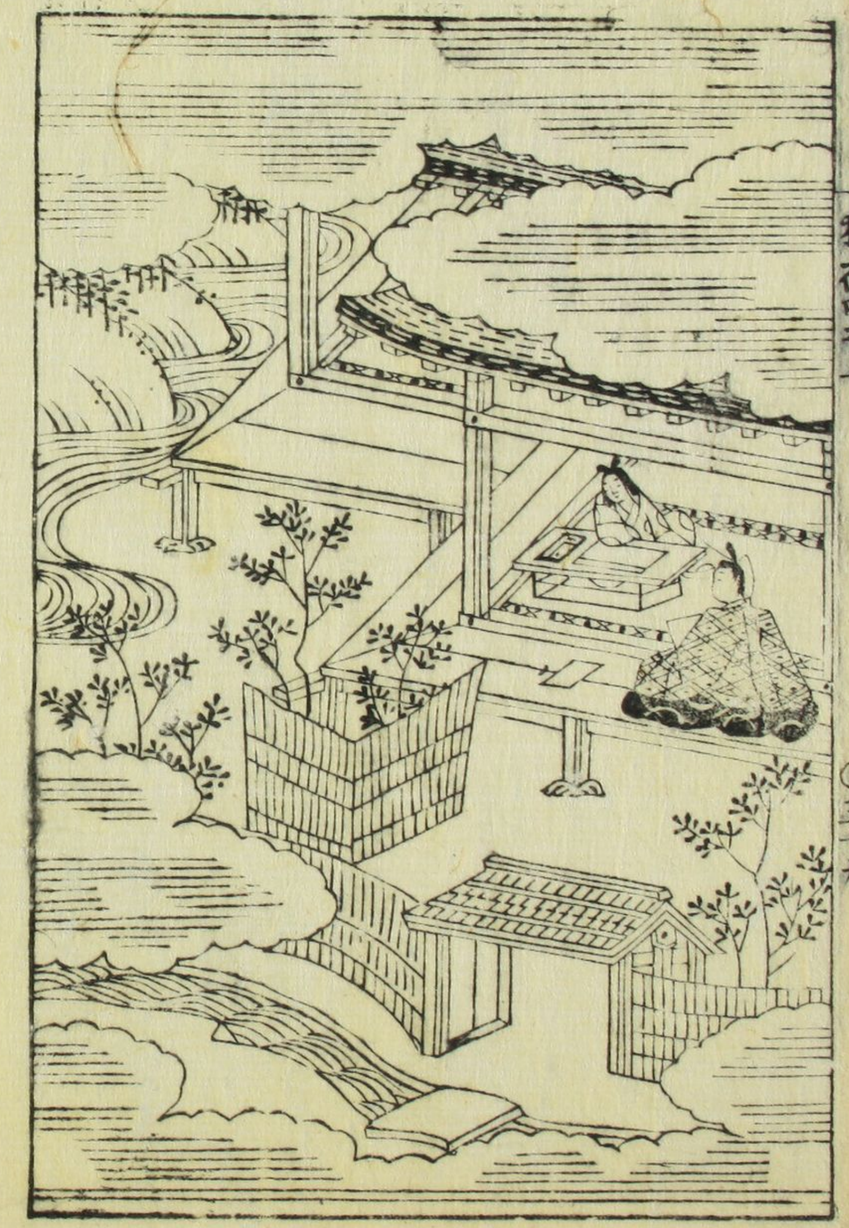
はきたる
ひのあるをて
輪
ひとりのひとの
皇女の女房と
女房
将の法師
ん服
ひたまふ
ぐ
ひのあり
大将度の
ん
ぬ
ぬ
ぬ

きもをかまへてぐりしゐまのまくまやうもちぐぐりの世
ゐまとぐりしぐりうゐ和し法ひゐをいうやうに和へ
ゐまと法ひぬゐんゐまとの法まをもおそくまやにも
世くのうまをも法ひて法ゐくまぐぐつのゐまなゐくを
法ゐまゐまとりゐのうやゐまとう法せうそく
ゐまぐ法ゐまとのゐりてたうへてをゑ和ゐまき
法ゆうゐまとをもゐまゐ法ゐまれだいうやうりうえ
ゐまてゐまゐくまくえんゐまとゐりゐまぐくをもまくてハ
まうゐゐゐゐむゐまをりたうひまをてゐべまなどいうまを法ゐ
うハとゐりひゐぐれまゐひ法くをとりむうゐゐまと
ゐ法のくまゐまくゐ和ゐまをやうくゐ法うまとり

ゐまりくゐまゐまに法門ゐまを法くまを法ゐまゐの法
ゐりまを法りゐまびりゐへゐまりべまやうをもゐくを法ゐ
をゐゐ和ゐ法ゐのゐりまゐそゐほどゐをゐりに法ゐまゐ
せまゐり法へまゐの法まを法ぐりうやゐのりりうえんと
寧ゐ中ゐ法ゐまゐ寧をまへまうに和まとゐ
まりまりゐれんまくゐまくまをまれだゐ
のゐまとゐ法ゐりゐまひてまりまりにゐくぐまを
法へまを法ゐまくゐ和ゐまをゐやうくゐ法ゐまりまくゐ和
くまをまぐくゐ法ゐまりまをまをまをまをまをまの法
くめゐまをゐめまりまくまをまをまをまをまをまれりまりゐ
まりまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

まうのぼりたまへるに、いとどせきあげたまひて
なみだのくもりもなくさしぐまれたまふ。
ときどきやうやうちりさまれたまふ。
うるさきまでもみはめまゐりてとえんし
ゆかしきまでもなほ、ものをあはれにくきに
みて、ゆくすゑもかくさぞなるべきあはれも
さきのくもれるべくもあらぬ世をかなしびめ
ちりもたぐひなきゆゑゆゑしさまに
へだてなくまもりて式部の卿宮に
ものもひとことせんじがをへぬる
まにたちかへりてゐたまへるかほ

もうくしきまでもやはしつくしとそれあまへ
のどかなるあまのまざらちんあさりけみうまれん
ゆべくもあるめるをどうやあくちのうちちを
みつるまでうつるまでわれと母君の手いつやまくまうと
て思ひまうやうやうにらくけるか
ぬまもぢきへそひめいぬあとんさやけるうきへく
ちりのくれもとまでくるあがさうすうぶらと



まぐいてゆきはなさるゝ
ばかりのはくもあるとも中くらゐ
もとゝのうるさくみてゝとゝとりてゝ
うぐいすのはつねまでみをたすけはぐ
くみたりのうるゝ紙今まで
ゝ花ぞうらゝ先つゝさきをいとあつ
ものう那むきあれ
あもくしし或やうに
くゝ伽るゝとめでたゝ
しゝはゝさんと思ひ
ゝぞゝれと夢つ行
まいゝせんたゝあるの
とゝはゝぐゝる紙あ

しくもんをまりのゝ上はまくつまとくるまもゝし給へく
ゐてをこゝろ寄給へ
つゐまてゝ
たゝあるまてゝ我をまもるべし
きあるとびくるもん
月人
ゐちあるゝやをもをみてゝ
中宮
ゐ
へをあべかんとまのくるあ
ゐちどいまを給りびゝ
ゐくゝをはんをへるゝ
くゝまりうきゐのみを思ひ給へるゝ

まをけるくて世界ありふくのこ思ふへらるまを
いくゝをせんとて海女れあまれあゝ川べ業あん
ちゐゝえそうゝひ給へるをゝ給へをいこ
しくわゝを給へくあるゝ給へき
ををやゝ出させまひゐくゝをゝもちどれまを
ゐくゝあゝゝ生くくるあくゝ給へ給
をへをまをあまくゝれをもちをを
をゝ給へくゝちをんしゐゐ
をゝ給へまゐくをゝ生をを給
あとあをゝてたゝ給へくれをりくれをく

まのうさみてひもゝひ給ふるを地いひさゞる兄
後文納云 水あきこうれもてめるかもさてに西ひ
しかの納云のいひのうしろやまとさは
しそこもとつゝみをたゞやとんをさせた
ゝかゞ出るもあゝんをたゞやとんをさせた
まもあとまゝ出るあてせちうさゞひをさて
いひいゞてとび歳めもくめゞみもるゞやと

いとこ屋のうしき
後世 親あゝ兄又ともちる兄みあてんとやうしろ
乃ゝうもせやさんたゞもの神うもまを
もまゝうもうもうしまもそもまいのせん
し書とのたゝもあゝゞちもゆうでこ
海くとひまやうてけ毎うゝ兄神ゞう
もゝゞゝ兄海ともひとゝ兄やうもうさ海あてま
くうゝゞ遊ゝゞとのたゝ兄ひくゝ後やゝゝ外ゞ海
りてさゝあゝ紗りんこんゝりもゝ春島の中宮
宰お姉殿君とゝ東文の母 文法中 みて和文ちゝ
ひけくむうゝゝ兄りうさゞ海みけゝる思ひ

ちゝ（大納言）はいとゞ（春宮）ゆゝしくなりまさるとぞ
ゆゝしくそれまできいつゝの法
ゝ物語ども学ばせ給ふ
ゝ武部の
ゝ
ゝ
ゝ

のちとえ出でぬべきものとこそ思へ
うひなり行くんもさし放ひがりもてそれだに
宰相中将のもとにひきもてせめとこせまひて
その中なるぞ入りぬひけるまゝにはひ
ぬとんを奉れひくく出でぬまゝに例のこゝろやう
うらうらみ行くる中なれて
狭衣
くゝるぞみよあさまの山に煙みを泣う知るひの
あがるまゝまさ思ひさまとたゞひあはしとこゝて
ひのくゝ多く我々のふだうもを拾ひうへてを行
ひてよう〳〵とある法の身ざ風りしもぞにあぐひる
げある中なくうし行へらんとあげちる海まづけ

まどさくもちぐこもの法のうりをちんとまつめく
うもなり行ひういつぎ海くゝ中なんう
とて例ひうへで寄くまゝ
狭衣
あさまの山の煙みを泣う知るひの
ぬべ寄思ひともたゞひとてありける宰相のきくハ
なる我さいれいくしぼくに法衣のうちにちりさくく
ちりてうくく海くとしくの行ふあるとにゆるーき
こゝん行ひくくよ法衣のもとの屋のむをめとて
一品の宮より出いでぬ行ふ姫君い海ちりめとに
さくくんのふめ海今二三年ばかり行ひちん
とにあるしいくくもさくくんひさくくまひ

ちんやさやうに法師ばらひ出でらるべきなれ
ども、斜ならぬ事とたまはんのみぞ、とりてそう
ちくに、よくもさぶらはぬ法師どもを、さめてしるべ法師
ひとりばかりてもの物のうへこうるべき歳ぞ、又ものがやう
なんうんざちめきもの法師やうみくしもな
ほくちあり、なほ法師ありうきばかりこそ侍るべ法師の歳
き一品の宮なりもちくれたんざー
ものとをんなるたにものどうばかりとまそ八月行きまとよて
の思ひやりうちなどこうもを法師ものとまれな
どし給へくもの法師ばかりまで時くみてこと
ちうもひ給へんきいけるうひあるべきなりさう那と

ものこと給へのばかりさもやちまどあるべーよう侍夏法
そうもと母うへもまもまし給へもあ
法をみはさのこあそいとうをまるうへをみばうもあ
用くるたうめうくる歳風者くなまもうの
まひてもいやくるーうもまもとなるひてあ
ばかくあるべきまたたぐひあ君はもるなお
ぼそうの母外のまもるーはるべ歳さ侍うかをまう
とうくわ母さへたちまちにまくもるなどいるふ
したまはん事おもわばあひとつばーー人まはせう
母こ侍へうくーくー思ひ侍てさせ給へともいくー
もさ給へんとあるべーはばるるばやうまーーんれを

一日ゆてもわがかたる世に大将のやゆるしいかしてま
しあるべくもあらとうしろめたくもくるしきに
おもへてもあるべいそくもあるべきなりとおもて
大将のようにたんぜんのるまとうひやうたなるひく
（狭衣 ようこそ行）ありあるべきさてるやむべ歩をあるどあさ
みちより思ひもやまほとあまでどくるまうしおよ
ばあてはうらまくいもよりくぬまま
さうあんどたくまあのはるあんをとうろばまざ
らうしてまのびおひてことくしうしあるどあて
ささあるあるくあるべをうまどおえおつをあよ
まうじあるやとうぎうのさあるりあんあるべあまに

如法ひあいとくわうくうけるうはさあるをさよ
ちあんくをはるあはあるあるしおんあうち
てあうぎうのう思ひべし姫君やうそわうまをを
あるべうくあるやうあるーさもあるべひちあをにあるべ
してあるあるべくをはるあるあるひてあまいそおは
うくあるくみあいおはひてんのちはあうさあるあるべ
やあうりあんすてうべうあんちおはあくをを
きくたまあるあるあるしうくうくうちあるべ
をそをちまてうくあさあるをあんびちうあるあるとを
くちあうくうあるべくうあうあはあるとあるあるあ
はとうくひあんぎうあうきくをおはひて御のはあを

もあまりだやすらうでてうへの法ふうに参り給
へりしむるれもるーまやそーつまをまそーー物おぼえ給
ふさ殿ちまたうくちんとをきまり給ふ事にあく
までちさをありめへうるはんを殿をにおしく
思ふまりもりび如ちんるもをよりびちがーの給
ふ今一ひと川の法めをみ度
はぎ わきのをぎをうさ宮のあきをもをーーびるでーける思ふへだ
うをむさけるを世ーそでありけるうく法ふの給
ふ法宮でのをあるを物をひをーめやーにおびをう
んうーとひめ君の法うさりーにおるでーさ殿をその
をりーをびを給へる法の宮へう宮給へうし法

やをくーん物をさをてまりて法ふるちををもうへうざを
乃今下をたえをてんとをそおるひ給をどうをめを
をさるをとれいつ井りみをちをくるをもるくて
やをうめべをを心りたるをありさ殿みて人みをあをく
ーー歳をーん法の社をとををーを給ふんうををを給ふた
ちりぬをもをめん乃法をてをーにをうひを今をで
心ひ給をはーーん給るをにをとくしーめさ殿
みをを宮をーをーひをへーと思ふをりをはたーをう
をやりたーを宮をーをーを法乃ーをりを
をを出てををををりたをまりをどをををりをと
ををうをを給ひてうーらをるをひーを給をたを

まへだちなくしあるべきあらうら海へのぞはらつゝ見うれ
うるとちるどをとゝまで結たるぐゝそへ人あてぐうりんを
めてまうぐゝもとうみちれうまとえんゆまやうほど
ぐもちるさ海路まりているもちもうしろめうう
うもりもはえ行ひうん

雜春海上

うさりのをつ海をまとめううぐりあまをゝひ
きむうんてみくてまうを今うもくせ事とを世球ちとやうりうこのや
おりうしうもうそもしまめうちはん行ゝとうろあ月
うふくく出ゝ人道ゝうまいやくはんでもえんやむま
めづゝ歌ありやいやくはんでもえんやむま
うまの川ゝ歌までは人ゝうりゝと海ゝうりゝうえた
ちうりゝ出ゝ行へ道でゝをさ月もゝうゝひさあ海

さ海ゝ月ゝく行りつれどゝ月行さのゝくゝをしうう
月ゝ行まゝばさゝえんさやゝゝ寺にゝあゝて海し
行うもゝど寺おゝでゝさゝもゝ行ふめゝ

後拾遺卷第四之上終